

「救命に役立てて」

豊橋ハート除細動器を市へ寄贈 センター

心臓医療を専門とする豊橋ハートセンター(鈴木孝彦院長)は20日、「救命に役立て、機器の普及にも弾みをつけてほしい」と、豊橋市に心臓に電気ショックを与えて機能の蘇(そ)生を図る「自動体外式除細動器(AED)」13器を贈った。

AEDは昨年7月の医療法改正で、一般市民も使用できるようになった。今回贈った機器は最新鋭機で、患者の心臓周辺に電極付きパッドを張り、ボタンを押すだけで除細動(心臓への電気ショック)を与えることができ、再び心臓機能を正

常な状態に戻せる。

この日は、鈴木院長ら2人が市役所に早川勝市長を訪ね、AED13器(1器の定価約70万円)ほか、AEDを収納する容器と容器の固定台各9台を贈った。

市は13器のうち2器を市役所(1階受付と西館5階)に置くほか、市中央図書館、豊橋総合動植物公園、市美術博物館などの市施設にも設置する。

鈴木院長によると、心臓突然死の大半は、「心室細動」によるもので、国内では年間約5万人しかし、適切な電気ショックを与えれば、1分以内なら約9割、5分以内でも約半分が助かる。

豊橋ハートセンターは昨秋から今春にかけて、豊川、蒲郡、新城、田原と渥美町の4市1町に計17台を贈っており、今回合わせて寄贈台数は30台。今後も要望があれば寄贈を検討する。



鈴木院長左に教わり、訓練用のAEDを使って使用法を学ぶ早川市長

試用した早川市長は「これなら、子どもでも簡単に使える。1人でも多く市民に使用法を覚えてもらい、市民の救命率を上げたい」と話していた。

(高石昌良)